

親子聖書日課

NO.1682 2020.12/20-26

名前

[日]イスラエルに限らず周辺諸国も神に裁かれると預言された通りになりました。「その時・私が主であることを知るようになる」5,7,11,17節。私達の人生も神の御前にあるのです。この裁きの時が来る前に、神を恐れ従うことを学びましょう。

[月]ティルスは海洋貿易で栄え、巨額の富を得「地中海の女王」と呼ばれました。高慢にも富の力によって永遠の都と思い込みました。今日、そんな人はティルスのように打たれ「裸の岩」にされます。豊かになっても、主をのみ誇りましょう。

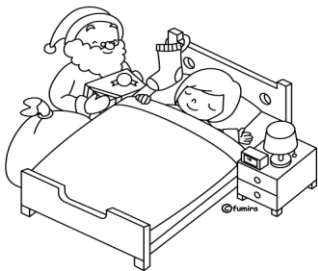
[火]ティルスは「私の姿は美しさの極み」と自分自身を誇りました。その美しさは当時の世界を魅了しましたが、どこにも神に栄光を帰した様子はありません。美しさは、神の裁きには何の助けにもなりません。自分自身でなく、主を誇りましょう。

[水]3章続けてティルスへの預言が記されたのは、誰もが豊かになると自分の知恵と富を誇り、「自分の心は神の心のような」と思い込むからです。自分の知恵と富に頼っては、幸せになれません。いつも主に拠り頼み、富は天に蓄えましょう。

[木]イスラエルへの帰還の預言の直前にシドンへの裁きの預言がなされました。それは、途上にあるシドンを主が裁かれるので、民は無事に捕囚の地からイスラエルへ帰り、安らかに住み着くというのです。回復の道を主は備えられました。

[金]最強の国であったエジプトを、「葦の杖にすぎない」と主は言われました。これは拠り頼むと折れてしまう弱い存在のことで、事実、イスラエルはこの葦の杖に欺かれ、破れました。今日の大国も同じです。折れることのない、主に拠り頼みましょう。

[土]「主の日は近い」世の終わりは確実に近づいています。その日は、全ての人が主を知るに至りますが、主を信じない人は裁き主として、信じる人は、救い主として主を知ります。今日、世の終わりが来てもいいように、伝道の業に励みましょう。



	聖書	問題	答え
日	エゼキエル 25:1-17	彼らはその何によって大いに罪を犯しましたか。	
月	26:1-21	ティルスをどんな岩にしましたか。	
火	27:1-36	ティルスは「私の姿はどのようだ」と誇りましたか。	
水	28:1-19	お前の心は富のゆえにどうなりましたか。	
木	28:20-26	イスラエルの民は、ヤコブに与えた土地に、どのように住み着きますか。	
金	29:1-21	エジプトはイスラエルの家にとって、何にすぎませんでしたか。	
土	30:1-26	主の日は、諸国民のどのような時ですか。	
感想と祈りの課題			